

演習問題の解答例

---

1. 「彼」が犯人かどうかを判断する十分多くの機会があつて、そのうちかなりの割合で彼が犯人である、と言っているわけではありませんから、刑事が言っているのは確率ではありません。これは、刑事の「確信の度合い」というべきもので、確率とは別のものです。ただし、この確信度を確率と同じように取り扱う「ベイズ統計学」という考え方があり、そこではこのような確信度を「事前確率」とよんでいます。
2. 確率は「未来の1回の試行」について述べるものですから、そもそも「これまでの的中確率」という表現はおかしいです。「これまでの的中割合」というべきでしょう。  
では、仮に、「これまでの的中割合」をここでは「的中確率」と言う、ということにしましょう。そうだとすると、この記述は以下の理由でおかしいです。  
「予言の的中確率」は、予言の数が十分多いとき「(当たった予言の数) ÷ (全ての予言の数)」という割合に相当します。一方、「大事件の99%はノストラダムスの予言書で予言されている」というのが事実だとしても、そのことが示しているのは「(予言されている大事件の数) ÷ (これまでの全ての大事件の数)」という割合が99%であるということであり、それは「予言の的中確率」とは別のものです。「大事件を言い当てている予言」以外に、はずれた予言が予言書に無数にあれば、予言の的中確率はずっと低いことになります。